

調査仕様書

1. 件名

平成26年度放送大学学園視聴状況調査に関する調査業務

2. 調査概要

(1) 調査方法

郵送調査

(2) 調査対象者及び目標有効回収数

ア 学生（教養学部及び大学院）

平成26年度第1学期に在籍し、科目登録を行っている放送大学学園（以下、学園という。）の学生から、関東圏学生・関東圏以外学生に分けサンプルを抽出し、調査を行う。

イ 目標有効回収数

目標有効回収数は関東圏学生・関東圏以外学生共に750サンプル以上、合計1,500サンプル以上とし、請負者は目標有効回収数のサンプルが獲得できるよう、調査協力依頼数を4,500以上とすること。

(3) 調査項目

学園が調査で把握したい主な項目（別紙1）を元に請負者が調査項目（案）を作成し、学園と協議し決定する。

3. 調査実施の条件

請負者は下記、(1)～(8)の委託内容について、学園担当者の指示に従い、履行すること。

(1) 調査材料の作成

ア 調査協力依頼状

イ 調査票（自由記述設問も含み80問を超えない程度を想定。）

ウ その他調査に必要な材料

(2) 調査票の発送

学園が調査対象者への調査票発送にあたり、宛先ラベルの貼り付け等の作業支援を行うこと。なお、対象学生の個人情報（住所等）を保護する観点から、当該作業は学園内のみで実施すること。

発送用封筒（角2封筒）は学園より請負者に提供する。発送に関しては学園内から郵便事業株式会社を利用すること。

(3) 調査票発送から回収までの対象学生へのサポート及び調査協力謝礼の提供

調査票発送から回収締め切り後の適切な期間中、フリーダイヤル等の着信者課金番号を用いた問合せ窓口を設置し、対象学生からの問合せに対応すること。また、調査票発送から回収締め切り前に、はがきによる催促通知を対象学生に送付すること。

調査協力者に対しては、500 円の金券を進呈のこと。謝礼の提供時期は請負者の判断に委ねるが、辞退の申し出があった等の特別な理由を除き、調査協力者全員に実施すること。なお、学生の調査票返信先は、請負者とする。その際の学生の個人情報取得に関しては、調査票上にて学生から承諾を得ること。

集計対象になった調査協力者に係る費用（調査票返信に係る費用（140 円以下／人）、謝礼品費（500 円／人）及び謝礼郵送費（82 円／人））については、実費を学園が負担することとし、調査完了後、当該費用を契約額に加算した金額を費用の内訳を記載したものを添付して学園に請求すること。ただし、集計対象にならなかった調査協力者に係る当該費用については、請負者が負担すること。

（４） 調査結果の集計

調査結果の単純集計及び項目別クロス集計を行うこと。なお、クロス集計の項目については、担当者の指示に従うこと。ただし、以下の内容のクロス集計は必ず実施すること。

- ア 性別・年齢別
- イ 関東圏・関東圏以外の学生別
- ウ 学生・大学院生別
- エ 居住地（地方エリアを想定）別

上記ア～エの集計に際しては、学生種別構成比・学生性年代構成比・学生居住地構成比等を用いたウェイトバック処理を行っての集計も含まれる。

調査結果において矛盾した回答があった場合は、必要に応じて学園担当者に確認し、適切な回答に修正すること。

（５） 調査結果の分析

調査結果の分析に際しては、上記集計内容を踏まえ調査対象者の属性別比較分析を行うこと。

（６） 納入成果物

ア GT（Grand Total）集計表

自由記述式以外の回答について、実数、関東、関東以外、学生構成別ウェイト、地域別ウェイトにより集計した電子データ（Microsoft Excel フォーマット及び PDF フォーマット）一式を納品すること。

イ クロス集計表

上記（４）をとりまとめ、電子データ（Microsoft Excel フォーマット及び PDF フォーマット）一式を納品すること。その際、ローデータを添付すること。

ウ 調査報告書

上記（５）をとりまとめ、電子データ（Microsoft Excel フォーマット及び PDF フォーマット）一式及び印刷物（A4、グレースケール、200 ページ程度）50 部を納品すること。

エ フリーアンサー集

自由記述式の回答をテキスト化し、ウ 調査報告書とは別に回答内容をとりまとめ、電子データ（Microsoft Excel 及び PDF フォーマット）一式及び印刷物（A4、グレースケール、100

ページ程度) 50 部を納品すること。

- ※ ア～エの電子データを CD-R 等の電子媒体に保存したものを、調査報告書と共に提出すること。
各電子データは単一の電子媒体にまとめてもよいが、電子媒体に何が保存されているのかを明示すること。

(7) 個人情報の管理について

請負者は本件に関し、知り得た個人情報の適切な管理のための必要な措置を講じること。

(8) 調査完了後の処理について

調査完了後から平成 27 年度末まで、本調査結果に関する詳細事項や関連する視聴メディアによる最新の普及状況(世帯または個人普及率)について、学園担当者からの問い合わせに応じること。

4. 納入期限

GT 集計表納入期限	平成 26 年 9 月 1 日
クロス集計表納入期限	平成 26 年 9 月 1 日
調査報告書納入期限	平成 26 年 12 月 1 日
フリーアンサー集納入期限	平成 26 年 12 月 1 日

5. 知的財産権等

成果物に関する権利は、本学園に帰属するものとする。

6. その他

- (1) 請負者は、一般財団法人日本情報経済社会推進協会より、プライバシーマークの付与認定を受けていること。
- (2) 請負者は、一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会(JMRA)の正会員社であること。
- (3) 請負者は、本業務に係る学園本部(千葉市美浜区若葉 2-11)との打ち合わせ及び学園本部からの調査票発送作業に迅速に対応できる体制を整えておくこと。
- (4) 別紙 2 に示す調査票作成要領に従って要件を満たす審査用調査票を作成し、入札書等と共に提出できること。
- (5) 請負者は、過去 1 年間に、BS デジタル放送の利用状況や利用実態に関するデータを有すること。
- (6) 本調査の実施、集計の際には、仕様書に定める以外の事項については、学園担当者の指示に従うこと。
- (7) 業務遂行にあたっては一般法令を遵守すること。
- (8) 成果物の作成にあたり、第三者が権利を有する著作物を使用する場合、必要な費用の負担及び使用許諾契約に関る一切の手続きは請負者が行うこと。

学園が調査で把握したい主な項目

☐ 「テレビ全体」の視聴方法について

- ・視聴可能な放送媒体（複数可）
- ・BS デジタル放送視聴方法（複数可）
- ・BS デジタルチューナー保有の有無

☐ 放送大学の「テレビの授業番組」について

- ・「テレビの授業番組」視聴の可否、録画の可否、視聴の有無
- ・「テレビの授業番組」視聴割合（リアルタイム、録画、インターネット配信等）
- ・「テレビの授業番組」視聴方法（地上、BS、ケーブルテレビ等）
- ・ケーブルテレビ経由「テレビの授業番組」放送方式（地上、BS、番組配信サービス等）
- ・「テレビの授業番組」を視聴しない理由（複数可）

☐ 放送大学の「ラジオの授業番組」について

- ・「ラジオの授業番組」聴取の可否、録音の可否、聴取の有無
- ・「ラジオの授業番組」聴取割合（リアルタイム、録画、学生向けインターネット配信等）
- ・「ラジオの授業番組」聴取方法（地上、BS、ケーブルテレビ、学生向けインターネット配信、IPサイマルラジオ（radiko.jp）配信等）
- ・ケーブルテレビ経由「ラジオの授業番組」放送方式（FM、BS、番組配信サービス等）
- ・「ラジオの授業番組」を聴取しない理由（複数可）

☐ インターネット環境

- ・インターネットを利用できるパソコンの有無
- ・インターネットへの通信回線接続方法
- ・パソコンでのインターネットの利用有無、利用頻度
- ・インターネットの利用内容（複数可）

☐ 授業科目のインターネット配信等（radiko.jp や細分化配信も含む。）

- ・インターネット配信等の認知度
- ・インターネット配信等の利用有無
- ・インターネット配信等を利用しない理由

☐ 携帯端末（スマートフォン等を含む。）でのインターネット利用

- ・携帯端末（スマートフォン等を含む。）所有の有無
- ・携帯端末（スマートフォン等を含む。）でのインターネット利用有無、利用頻度
- ・携帯端末（スマートフォン等を含む。）でのインターネットで利用する内容（複数可）
- ・携帯端末（スマートフォン等を含む。）への番組配信の利用意向

☐ 特別講義及びデータ放送等

- ・特別講義及びデータ放送等の認知
- ・特別講義及びデータ放送等の視聴実態
- ・マルチ編成における放送に希望する内容

☐ ゆとりの期間、集中放送授業期間及びマルチ編成

- ・ゆとりの期間及び集中放送授業期間の視聴実態、視聴理由、希望する内容
- ・マルチ編成の視聴実態、希望する内容

☐ 印刷教材の電子書籍化

- ・電子書籍利用状況、利用デバイス
- ・電子書籍を利用していない理由（フリーアンサー）
- ・教材の電子書籍化についての意向（フリーアンサー含む）
- ・教材の電子書籍化についての希望（フリーアンサー）

☐ 学生本人に関する情報

- ・放送大学入学前に、放送大学を知ったきっかけ
- ・学生種別
- ・入学年度
- ・「テレビ番組」と「ラジオ番組」の科目登録数
- ・視聴・聴取するのに都合がよい時間帯をすべて（複数可）
※現在の放送時間に関係なく、録画視聴・録音聴取の時間も含めて
- ・性別
- ・年齢
- ・職業
- ・居住都道府県
- ・学習センターまでの所要時間
- ・学習センターの利用頻度

☐ その他

- ・放送番組に対する評価や意見等（フリーアンサー含む）

審査用調査票の作成要領

1 審査用調査票の作成について

本紙を熟読の上、今回調査に必要な調査票の一部（5問以上）を審査用調査票として作成し、提出すること。参考として「平成25年度放送大学学園視聴状況調査」調査票概要（抜粋）を添付する。

2 応募にあたっての留意点

- （1）応募に必要な経費は、全て応募者の負担とする。
- （2）様式は適宜とする。
- （3）審査用調査票は、質問文及び回答で構成し、必要に応じて専門用語の補足説明を加えるなど放送システムに詳しくない学生でもわかりやすい内容にすること。
- （4）ケーブルテレビに加入して放送大学を視聴している学生が、BSデジタル放送の再放送を受信して視聴しているかどうか把握できる問を少なくとも1問作成すること。
- （5）入札書等と一緒に提出すること。

3 審査用調査票作成に当たって考慮すべき学生の視聴状況等

審査用調査票の設問等の作成には、放送大学の学生システムや本学園が実施している放送について、一定の知識が必要であると考えられるため、本学での学習、放送形態等について、下記の要点を記す。

（1）調査の背景

- 放送大学の学生は、テレビとラジオで放送される授業番組を視聴し、かつ、印刷教材を使って学び、通信指導、学期末に実施される単位認定試験に合格し、単位を付与される。
- 授業科目は、教養学部及び大学院を合わせ、テレビ約180科目、ラジオ約160科目から学ぶことができる。
- 放送大学テレビ・ラジオ放送は、全国ではBSデジタル放送を、また、関東圏では地上デジタル放送・FM放送を実施している。
- 放送を補完するサービスとして、学生向けインターネット配信（オンデマンド配信）やIPサイマルラジオ配信（radiko.jp）も実施している。
- 都合により放送を視聴できなかった学生に、各都道府県にある学習センター等に備えられたDVD・CDで再視聴出来るサービスを実施している。
- BSデジタル放送と地上デジタル放送では、デジタル放送の特性を活かしたマルチ編成のサービスを一部の時間帯で実施している。
- BSデジタル放送を例にとると、放送大学のテレビ授業番組を放送している全

ての時間において、BS231ch で放送大学の授業番組を視聴可能である。また、マルチ編成実施時間帯（13：00-14：30、と 20：45-23：00）の時間帯では、BS231ch に加え、BS232ch 及びBS233ch で別の番組を視聴することが可能である。

○放送大学では、デジタル放送の特性を活かしたサービスとして、マルチ編成のほかにデータ放送も実施している。また、一部の特別講義については番組に関連した情報を伝える擬似連動データ放送を試行的に実施している。

○一部のケーブルテレビ会社は、放送大学の放送を再放送している。

○ケーブルテレビ会社が再放送している放送大学の放送方式は、全国ではBSデジタル放送による放送、番組配信サービスによる配信、関東圏では地上デジタル放送（FM放送）による放送のうち、いずれかである。

（2）基礎資料として本調査が資すべき目的の一例

BSデジタル放送などで放送障害が発生した場合、学生が他に授業番組を視聴する手段がない場合や少ない場合など、当該学生の単位取得に影響がある。

そのため、BSデジタル放送などで放送障害が発生した場合に影響がある学生数等を把握し、当該学生における代替手段（インターネット配信及び学習センター等）確保の可能性（困難性）の検討に資する。

（3）その他

放送大学の授業番組をケーブルテレビで視聴する学生は、どの放送方式で視聴しているのか判別することが困難であることが想定されることから、受信形式による放送内容の違いやそれを確認するための機器の操作方法などの説明を加えるなどして、わかりやすい質問文及び回答を作成する必要がある。

「平成25年度放送大学学園視聴状況調査」調査票概要（抜粋）

設問の例	選択肢の例1	選択肢の例2
Q1. 視聴可能テレビ放送	B Sデジタル放送	地上デジタル放送
Q2. B S放送視聴方法	アンテナ（共同アンテナを含む）から直接受信して視聴している	ケーブルテレビ経由で視聴している
Q3. 所有B Sデジタル放送受信機器	B Sデジタル放送に対応しているテレビ	B Sデジタル放送に対応している録画機（DVD・BDなど）
Q4. ①利用できる視聴経路	地上デジタル放送	B Sデジタル放送
Q7. テレビ授業番組視聴状況	視聴している	視聴していない
Q8. ①実際に利用している視聴経路	地上デジタル放送	B Sデジタル放送
Q9. テレビ授業視聴形態別割合（リアルタイム視聴）	0 %	1～9 %
Q10. テレビ授業番組を視聴しない理由	放送大学の「テレビの授業番組」を受信することができないから	「テレビの授業番組」の科目を受講していないから
Q11. テレビ授業番組視聴における利用したくない放送サービス	地上デジタル放送	B Sデジタル放送
Q12. B Sデジタル放送経路でテレビ授業番組を視聴したくない理由	地上デジタル放送で十分だから	インターネット配信（オンデマンド配信）で十分だから
Q13. インターネット配信でテレビ授業番組を視聴したくない理由	自宅にインターネットを利用できる環境がないから	自宅にインターネットを利用できるパソコンがないから
Q14. ①利用できる聴取経路	F M放送	B Sデジタル放送（ラジオ）
Q15. C A T V（ラジオ）での聴取時にあてはまる事柄	副音声で、「ラジオの授業番組」を聴取している	F M機器に回線をつないで、「ラジオの授業番組」を聴取している
Q16. B Sデジタル放送経路でラジオ授業番組を録音できる機器	ラジカセ・ステレオ・システムコンポ	本体で録画（録音）できるテレビ
Q17. ラジオ授業番組聴取状況	聴取している	聴取していない
Q18. ①実際に利用している聴取経路	F M放送	B Sデジタル放送（ラジオ）
Q19. ラジオ授業聴取形態別割合（リアルタイム聴取）	0 %	1～9 %
Q20. radiko. jp経路でラジオ授業番組を聴取する理由	放送大学の「ラジオの授業番組」を聴取する手段が他にないから	アナログラジオ放送に比べて音質がいいから
Q21. ラジオ授業番組を聴取しない理由	放送大学のラジオの授業番組を受信することができないから	ラジオの授業番組の科目を受講していないから
Q22. ラジオ授業番組聴取における利用したくない放送サービス	F M放送	B Sデジタル放送（ラジオ）
Q23. B Sデジタル放送経路でラジオ授業番組を聴取したくない理由	F M放送で十分だから	学生向けインターネット配信（オンデマンド配信）で十分だから
Q24. radiko. jpでラジオ授業番組を聴取したくない理由	自宅にインターネットを利用できる環境がないから	自宅にradiko. jpを利用できる端末がないから
Q25. ネット利用できる自宅内P Cの種類	Windows P C	Mac P C
Q26. ①利用できるネット接続方法	光ファイバー（F T T H）	A D S L
Q27. 自宅P Cでのネット利用頻度	利用していない	週に6日以上利用している
Q28. 自宅P Cでのネット利用内容	ホームページの閲覧	ホームページ（情報）の検索
Q29. ネット配信番組 細分割化の認知	知っていたが、視聴・聴取したことはなかった	知っており、視聴・聴取したことがあった
Q30. ネット配信番組 細分割化の感想	番組途中の視聴・聴取したい箇所を見つけやすくなった	再生されるまでの待ち時間が短くなった
Q31. ネット配信番組 細分割化への意見	細分割化される科目を増やしていくべき	Webページの表示をわかりやすくすべき
Q32. ネット配信番組 1回当たりの連続視聴時間	10分未満	10分以上20分未満
Q33. radiko. jp認知	確かに知っている	見たり、聞いたりしたような気がする
Q34. ラジオ授業番組 radiko. jp配信の認知	確かに知っている	見たり、聞いたりしたような気がする
Q35. 放送大学radiko利用有無	利用したことがある	知っているが、利用したことはない
Q36. ラジオ授業番組 radiko. jp配信利用方法	P C（「radiko. jp」公式アプリ又はホームページ）	P C（「radiko. jp」が提供していないアプリ）
Q37. 携帯端末所有の有無／種類	持っていない	携帯電話（スマートフォン以外）、P H S
Q38. 携帯端末でのインターネット利用内容	ホームページの閲覧	ホームページ（情報）の検索
Q39. 携帯端末を利用した授業番組利用意向程度	非常に利用したい	やや利用したい
Q40. 携帯端末での授業番組を利用したい理由	移動中に授業番組を視聴できるから	外出先の空いた時間に授業番組を視聴することができるから
Q41. 携帯端末での授業番組を利用したくない理由	画面が小さく、文字などが見づらいから	携帯端末のインターネット受信環境が悪そうだから
Q42. ゆとりの期間における放送番組の視聴状況	よく視聴している	ときどき視聴している
Q43. ゆとりの期間における放送番組で視聴したもの	授業番組（看護師資格取得に資する科目を除く）	看護師資格取得に資する科目
Q44. ゆとりの期間における授業番組で視聴したもの	放送授業期間に視聴した番組（再視聴）	放送授業期間に見逃した番組

Q45. ゆとりの期間における授業番組を視聴しない理由	既に視聴した番組だから	既に録画した番組だから
Q46. ゆとりの期間への要望・意見	授業科目の再放送を多く実施してほしい	放送授業期間に放送しない番組を多く放送してほしい
Q47. 集中放送授業期間における放送番組の視聴状況	よく視聴している	ときどき視聴している
Q48. 集中放送授業期間における放送番組で視聴したもの	授業番組（資格取得に資する科目を除く）	資格取得に資する科目
Q49. 集中放送授業期間における授業番組を視聴する理由	次学期に履修登録する予定の科目を予習するため	次学期の履修登録の参考にするため
Q50. 集中放送授業期間における授業番組を視聴しない理由	既に視聴した番組だから	既に録画した番組だから
Q51. 集中放送授業期間における再放送方法で望ましいもの	1日1回分、同一時間帯に15日連続して再放送	1日2回分、同一時間帯に8日連続して再放送
Q52. マルチ編成番組の視聴頻度 1. 放送授業期間	よく視聴している	ときどき視聴している
Q53. 放送授業期間中のマルチ編成における再放送方法で望ましいもの	第1チャンネルと同様に毎週1回15週にわたって放送	1日1回、同一時間帯に15日連続して放送
Q54. 放送授業期間中のマルチ編成についての要望・意見	新規開設科目、開設年度の新しい科目を再放送してほしい	第1チャンネルで早朝・深夜に放送した科目を再放送してほしい
Q55. 集中放送授業期間中のマルチ編成における再放送方法で望ましいもの	1日1回、同一時間帯に15日連続して再放送	1日2回、同一時間帯に8日連続して再放送
Q56. 集中放送授業期間中のマルチ編成についての要望・意見	新規開設科目、開設年度の新しい科目を再放送してほしい	外国語など語学系の科目を再放送してほしい
Q57. マルチ編成の実施にもっとも望ましい時間帯	6:00~9:00	9:00~12:00
Q58. マルチ編成における授業番組とそれ以外のバランスについて	授業番組の再放送を増やしてほしい	授業番組以外の特別講義や告知番組などの再放送を増やしてほしい
Q59. マルチ編成において授業番組の再放送を増やしてほしい理由	履修した科目を再度視聴したいから	放送授業期間に見逃した番組を視聴したいから
Q60. マルチ編成において授業番組以外の再放送を増やしてほしい理由	次学期に履修する科目選定の参考にしたいから	もう一度みたい名講義や特別講義を視聴したいから
Q61. マルチ編成実施への意見	実施してほしい	どちらかというを実施してほしい
Q62. マルチ編成を実施してほしい理由	画質が落ちても、履修に影響はないから	授業番組を視聴する機会が増えるから
Q63. マルチ編成を実施してほしい理由	高画質で番組を視聴したいから	高画質で番組を録画したいから
Q64. 電子書籍利用状況	利用している	利用したことはあるが、現在は利用していない
Q65. 電子書籍利用デバイス	PC (Windows)	PC (Mac)
Q66. 教材が電子書籍化された場合の利用意向	印刷教材（紙媒体）と電子書籍の両方を利用する	印刷教材（紙媒体）だけを利用する
Q67. 電子書籍の教材費がかかる場合の利用意向	負担額が発生しても印刷教材と電子書籍、両方を利用する	負担額が発生するのであれば、印刷教材（紙媒体）だけを利用する
Q69. 放送大学認知経路	テレビCM	新聞・雑誌のテレビ欄